

平成十二年

川柳作品集

埼玉県川柳協会

編集委員

川瀬	丸山	松村	佐藤	内田	田中
進	し				
皓	げ	育	美	雪	白
	る	子	文	彦	牧

平成12年 川柳作品集

平成12年3月15日発行

編集 川柳作品集編集委員

発行人 柿沼研人

発行所 埼玉県川柳協会

熊谷市円光1-12-13

〒360-0813 TEL 048(522)3679

印刷所 共和印刷

大宮市染谷1449

〒330-0814 TEL 048(683)6486

定価 1500円

平成十二年

川柳作品

埼玉県川柳協会

次

4

田中白牧

序

俗に十年ひと昔と言いますが、冬のトンネルを抜け優しい春風的时候了と、感慨ひとしおなものがあります。句集の上梓、まずはおめでとう申し上げます。

第四回国民文化祭川柳部門の受け皿として誕生しました埼玉県川柳協会ですが、初代会長山崎涼史氏の卓越した組織運営は素晴らしく、国民文化祭川柳部門分科会の成功。それに因んだ毎年実施の芸術文化祭を吹上町に誘致して川柳普及に貢献等々輝かしい功績を沢山残され一層のご活躍を願っておりますが、ご高齢により業務遂行に支障があつてはと自ら、任期十年を目処にご退陣、後任としまして、詳しくは「埼川協だより第十五号」に掲載されましたとおり、私の会長就任に至った次第です。

新メンバーのスタートに当り、副会長、事務局を交え今後の会運営について話し合いがもたれました。忌憚のない意見交換がなされまして、今回の句集発刊の話も煮詰められた次第であります。基本的には、会員相互が容易にふれあいの場が出来る施策、川柳愛好者同士の拠り所として、頼られるに足る諸行事の実践が検討され、取り敢えずは手

の付けられるところからと言うことで、「埼玉協だより」の増刊。三回発行を四回季刊とした、更に埼玉県川柳協会創立十周年記念として「彩の国川柳大会」を開催することを決定、百二十三名の参加者を得て、盛況裡に終ることができました。現在、今年度の大会準備も着々と進め、色紙・短冊展の方も趣向を変えた開催の手筈になって居ります。時代はまさに変革期、埼玉県川柳協会の総力を挙げての句集第二刊の上梓をみることで、ご同慶の至りであります。そして常に高らかな脈を打ち続ける、埼玉県川柳協会であることを願っております。

平成十二年三月

埼玉県川柳協会会長

柿 沼 研 人

秋 谷 美 喜

掌のウツを洗い忍従の葱きざむ
煮崩れてしまえば楽になれる肩
梨がぶり齧る無風な時間帯
寛大な櫂に憩う孤のカラス
転変のしみじみ枯れた掌を見つめ

血族の重さが切れぬもやい船
逆らえば渦巻く波に距離をおく
身辺を氣遣い鬼の骨を呑む
要領良く振れぬ尻尾へ積もる雪
拒んでる背中へ卵割りつづけ

〒 369-0306
☎

児玉郡上里町七本木二二三八
〇四九五―三四―二〇九〇

浅 見 ゆ き

八木節に合わせて踊る身の軽さ
親離れして今日こゝに妻迎え
句作りも暑さに負けてつい昼寝
疲れたよ馬鹿になれない面子さ
縫いかけの浴衣そのまゝ夏も過ぎ

背骨から病は来ると背を伸ばす
開拓の里も世につれ街づくり
菖蒲園梅雨に褪せたか花の色
健康で趣味が導き友も増え
手を挙げぬ吾が子見つめる参観日

〒
369-
1105



大里郡川本町本田八〇
〇四八―五八三―四九二八

青 鹿 一 秋

農道の真正面に日が沈む
遠足の足が塾では重過ぎる
さんま焼く少し詩人になった気で
パンドラの箱は細目に開けて見る
ピカソ展少しわかった顔で出る

銀行にくやしいけれど預金する
紛争が起きて広げる世界地図
戦国へタイムスリップさせる城
厚底のサンダルで抜く首一つ
ブラウン管がつくる今年の観光地

〒
349-
1102

北葛飾郡栗橋町中央二一九

電

〇四八〇一五二一二〇五

一七

青 田 稔

ガウデイの柱に背筋質される
奪い合う日溜まりがあるビルの街
日溜まりを小心者が駆け抜ける
呱呱の声聞いて天下が視野に入る
孫たちへ満期の夢を言っておく

レストラン「旅の会話」にマークペン
古都の旅ペーパーナイフで切り開く
スペイン語テープ回転忙しい
マタドール聞くだけにする袋小路
オリーブの古い根株が語る夢

〒
357-
0015

飯能市小久保一〇二一七
〇四二九一七一―三八七三

新井愁思

寡夫の眼に選る親切が好きな店
失樂園鼻血は涸れた寡夫で読む
再婚と観られた連れを煩わす
還暦を酌ぐ子に寡夫を来た誇り
寡夫と子の塵を掃除機吸い慣れる

諸法無我寡夫に明けゆく櫓の軋み
写経から寡夫は書かない崩し文字
地のままの寡夫で鱗も乾き切り
寡夫でよし此の子が骨を拾うなら
鼠めく音でやもめの厨ごと

〒 332-0001



川口市朝日一―二二―二〇
〇四八―二二四―四一三四

新井つる吉

採決へ揺らぐ優柔不斷の手
下戸だけが知る二の膳の旬の味
アリバイを作り世間を狭く生き
一と呼吸して穏やかな買い言葉
極楽往生したい俄かな写経熱

移籍して記録に挑む背番号
タクト一閃第九へ奏者呼吸が合い
高速にガイドも眠いバスの旅
客筋を見て案内はママが立ち
良心に恥じながら出す過ぎた世辞

〒 350-0838
☎

川越市宮元町五八―十一
〇四九二―二三―〇七〇四

飯 島 貞 男

鈍重な木偶にニュースが突き刺さる
優先席平等感に占拠され
選択肢はみ出す亀の自己主張
舞台裏覗いただけの加勢人
最終のドミノをそつと置くだろう

落葉舞う風呂に散らつく余命表
旅終える足に浮腫の決算書
朝花火関係もなく生きる今日
人の輪をカンバスにしてボランティア
父の血を受けた男の福は内

〒
369-
0137

北足立郡吹上町大芦

九二一五

☎ 〇四八―五四八―三八八一

飯 野 正 美

さよならのブランコだけが揺れている
夕立ちの名残りを止めた竿の先
一日の出来ごと反省する湯舟
泳がせて夫の手綱は離さない
泥水をひとりでかぶる母の傘

北国の冬を着ている秋祭り
大学を出ても飛べない竹とんぼ
それぞれの型を持つてゐる人の背な
トンボ追う後をトンボがついて来る
片袖を濡らして帰る愛の傘

〒 355-0018
東松山市松山町三一四―五
〇四九三―二三―〇四三〇

五十嵐 浅 茅

七転び八起きモットー 日日励み
料理人味見重ねて腕を上げ
策謀や脅しに負けぬ正義感
真実を伏せて気にする世間体
世紀末乱れた世相嘆かせる

四十はおろか八十路越えても惑う日日
古代蓮縄文今に咲き誇り
境内へ心清める注連飾り
謎を生む星の世界ぞ宇宙圏
億の金よりも健康こそ宝

〒 369-1108
☎

大里郡川本町田中八五八
〇四八一五八三一二四五六

池田利治

野暮用の言訳崩す妻の顔
七半が飛ぶ快調な音となり
道徳を問題にして戦後荒れ
ジャンケンに後で手を出す孫の知恵
風邪用心顔半分のマスクにも

少子化で部落さびれる長寿村
技を誇り己を忘れ道はずれ
老いの齒にごぼうの味を噛みしめる
八十路まで愚直に歩む走馬灯
円高へ経済株が落ち着かず

〒
369-
1101

大里郡川本町長在家

一一八八

電話
〇四八―五八三―二二三九